



2022年7月14日

各位

会社名 株式会社パシフィックネット
代表者名 代表取締役社長 上田 満弘
(コード番号 3021 東証スタンダード)
問合せ先 取締役副社長 大江 正巳
(電話番号 03-5730-1441)

通期業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、2022年1月14日に公表した2022年5月期（2021年6月1日～2022年5月31日）の業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせします。

記

1. 業績予想の修正について

(1) 2022年5月期 連結業績予想数値の修正（2021年6月1日～2022年5月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	5,500	500	494	310	61.45
今回修正予想 (B)	5,507	342	334	209	41.42
増減額 (B-A)	7	△158	△160	△101	—
増減率 (%)	0.1	△31.6	△32.3	△32.5	—
(ご参考) 前期実績 (2021年5月期)	5,224	767	763	496	98.57

(2) 修正の理由

ストック収益（※1）は順調に拡大していますが、フロー収益（※1）は、オミクロン株による影響が想定以上に大きかったこと、さらにこの環境下でも先行投資を拡大したことが各利益予想の下方修正の理由です。

（※1）ストック収益：ITサブスクリプション事業

フロー収益：ITAD事業、コミュニケーション・デバイス事業

◆ ITサブスクリプション事業

当事業はPC等のIT機器サブスクリプションとITサービスで構成されます。

コロナ禍による企業の投資抑制と半導体不足の影響から2021年度の国内新規PC出荷台数は前年度比で減少しましたが、当社のITサブスクリプション事業は受注が好調（前期比2倍）でストックが積み上がり、売上高も拡大しました。

一方、好調な商談・受注に対し、半導体不足による納期遅延や機会損失を回避するため、第4四半期にはPCの先行仕入をさらに拡大し、減価償却費の先行額が増加いたしました。

（※2）

また、今後数年間のPC更新需要拡大（※3）と当事業の規模拡大に備えるため、IT人材・設備への投資、および基幹システムやCRMシステム刷新等のシステム投資を期初の計画より拡大し、サービス提供インフラの先行整備を進めました。この結果、想定より増収となりましたが、利益は減少となる見込みです。

（※2）ITサブスクリプション事業の規模拡大には先行投資が必要で、コストが先、売上が数か月～半年後から順次計上となる特性を有します。これは、PC仕入により減価償却費が先行すること、受注時期とサブスクリプション開始時期（売上高計上時期）にタイムラグが発生すること等が原因です。

（※3）2025年10月にWindows 10サポート終了が予定されており、2023年～2025年にPC更新需要が拡大すると予想されています。

◆ITAD事業

前述の国内新規PC出荷台数の減少に加え、上期のデルタ株に続いて、第3四半期にはオミクロン株感染者急増の影響を受け、企業や官公庁などで使用済みIT機器の排出の動きが鈍化し減収・減益となりました。

第4四半期は、オミクロン株が収束傾向となり商談は一部回復いたしましたが、部材の需給逼迫により新品調達が難航した影響等で、企業や官公庁の排出が想定以上に鈍く、入荷台数は前年同四半期比で減少しました。これによりITAD事業の業績に影響を受け想定よりも減収・減益となる見込みです。

◆コミュニケーション・デバイス事業

第1～第3四半期は観光需要の大幅減少の打撃を受けましたが、第4四半期は回復傾向となりました。通期では想定よりも減収・減益（営業損失が拡大）となる見込みです。

（注）上記の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

以上